

# 低出生体重児の栄養・食生活のあり方に関する研究 (分担研究：乳幼児期の栄養・食生活の在り方に関する研究)

研究協力者

二見 大介

要約：低出生体重児を持つ母親の栄養・食生活に関する意識や実態と、食や健康に関する情報の内容および入手経路はどのようなものになっているのか、その状況を把握し検討した。この結果、低出生体重児の食事状況は、育児担当者である母親の食生活に関する意識や食習慣・食行動に大きく左右されていることを確認した。従って、一人一人の児の抱えている問題が様々であり、対象児全体の平均化したものを基本にすべての指導マニュアルを作成することなく、可能な範囲で個別の事例をふまえて検討することが必要である。

見出し語：低出生体重児、保健・栄養指導、質問紙調査、食事記録調査

(研究の目的および背景)

現在、低出生体重児に対する保健・栄養指導は、保健所などの保健婦や管理栄養士などにより実施されている。しかし、低出生体重児の栄養所要量が存在しないことなどにより、その母親や児にとって必ずしも十分な指導が展開されているとはいえない。そのため低出生体重児の食事内容・食べ方などの理論的根拠に基づく教育的資料が欠如していることが指摘されている。

このため、平成8年度においては低出生体重児の食生活の現状と母親の栄養・食生活に対する意識や不安、育児を含めたこれらの情報源などについて明らかにするため、質問紙調査を行った。

また、質問紙調査とあわせて食事記録調査を秤量法により行った。食事記録調査は、3日間の離

乳食・幼児食の喫食時に食前の供食重量・残食重量を実測し、児が実際にどのくらいの量を、またどのようなものが食べられているかなどを把握した。さらに可能な範囲で児の食事の様子なども写真を用いて記録し、食事の食べ方などの問題点を検討した。

(研究方法)

埼玉県S市内在住の平成7・8年度出生児のうち、出生時体重1500g以上2500g以下の児(以下調査対象児と称す)85人(実数51人)。対象児の月齢は4～22カ月であった。

なお、1500g未満児は専門医療機関でのケアがなされているものと考え除外した。

また、正常児(出生時体重2501g以上児)

との比較は、これまで当該研究室で調査された乳幼児調査の結果および文献調査から得られた結果を用いることとした。

今回の調査は、対象児の出生体重を1500g以上2500g以下と定め、地域の保健センターを通じて調査依頼をした。

このため、全体的には離乳食・幼児食といった食事状況における成長・発達は、低出生体重児であってもそれほどの遅れはみられなかった。しかし、「離乳の基本」に定められている基準より数カ月遅れていた児や、11カ月でありながら消化器系の不調のため離乳食を開始していない児などが少数見られた。

また、今回の食事記録調査は、調査の特性から対象者数が他の調査に比較し少ないため、26の個別事例を検討することにより少数ではあるが深刻な問題を抱えている母親の存在を明らかにすることがある程度できた。

食事状況における問題は単に食生活だけでなくその児をとりまく生活環境が何らかの原因でバランスを失っていると考えられ、一人一人の児が抱えている問題は様々である。低出生体重児を正常児と分けてとらえ、平均化するのではなく、マニュアル作成においては、このような個別の事例をふまえた考慮が必要である。

また、使用する側の心構えとしてもマニュアルをそのまま起用するのではなく一人一人の児を十分に把握し、より適切な対応が望まれる。

なお、病院や保健所・保健センターは専門機関として健診の場などで有効に活用されていたが、このような機会のみでなく、児の発育段階に応じた生じる問題に合わせ、専門機関や地域からの積極

的な働きかけができるよう今後検討していく必要がある。

(研究結果)

結果表のとおり。

- 1 在胎週数別月齢
- 2 出生順位と胎数状況
- 3 身体状況に関すること
- 4 生活状況に関すること
- 5 離乳食開始月齢
- 6 食事所要時間
- 7 食事形態
- 8 食材の調理方法と料理形態
- 9 栄養摂取量および食事状況等の事例

(今後の調査研究の課題)

- 1 他の地域における実態を把握すること。
- 2 全体的に調査の客体数を増やすこと。特に7・8カ月児の把握を充実させること。
- 3 不足している栄養・食生活・育児などの保健情報の内容を明らかにすること。
- 4 指導に対する母親の問題意識を把握すること。
- 5 指導方法(使用教材の有無・種類)を検討すること。
- 6 指導内容(項目・難度・具体的情報)を検討すること。

今年度は、埼玉県S市において7月から3カ月児検診・10カ月児検診・1歳6カ月児検診の場で調査依頼を開始し、12月までの5カ月間調査を行った。1人の児について可能な場合、2回以上の調査を依頼したが、7・8カ月児にあたる離乳食中期の児をとらえることができなかったため、今後は、地域の拡大と離乳食中期の月齢の症例を増やすことが必要と思われる。

表1 対象児の属性 (質問紙調査・実数)

在胎週数	出生順位				多胎児		保育器使用有無	
	第1子	第2子	第3子	第4子以降	1胎	2胎	有	無
全体 n=85	48 (100.0)	24 (100.0)	12 (100.0)	1 (第4子) (100.0)	70 (100.0)	15 (100.0)	59 (100.0)	26 (100.0)
37週未満 n=29	15 (51.7)	4 (13.8)	10 (34.5)	0	19 (65.5)	10 (34.5)	27 (93.1)	2 (6.9)
37週以上 n=56	33 (58.9)	20 (35.7)	2 (3.6)	1 (第4子) (100.0)	51 (91.1)	5 (8.9)	32 (57.1)	24 (42.9)

単位:人(%)

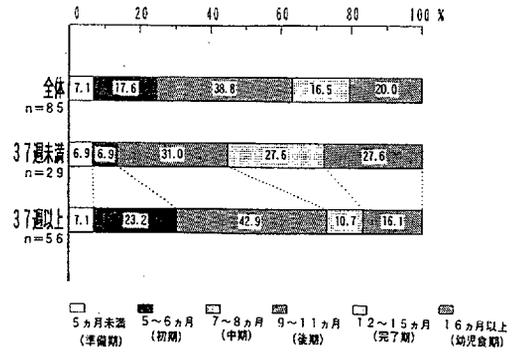


図1 在胎週数別に見た対象児の月齢(離乳食の段階別)

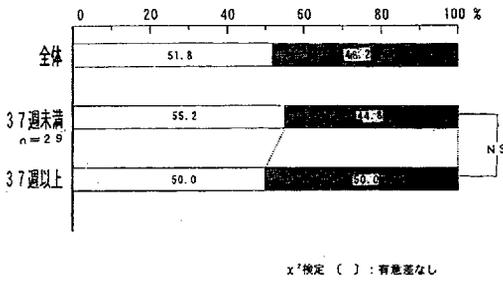


図2 身体状況に関して困っていることの有無(在胎週数別)

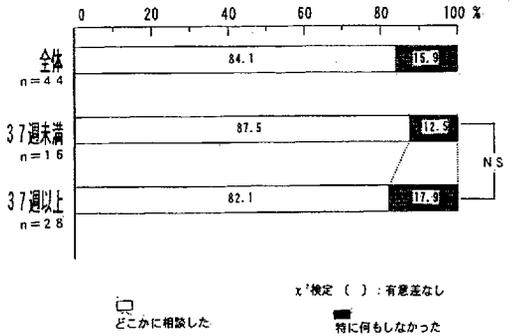


図3 身体状況に関して困っていることの解決行動(在胎週数別)

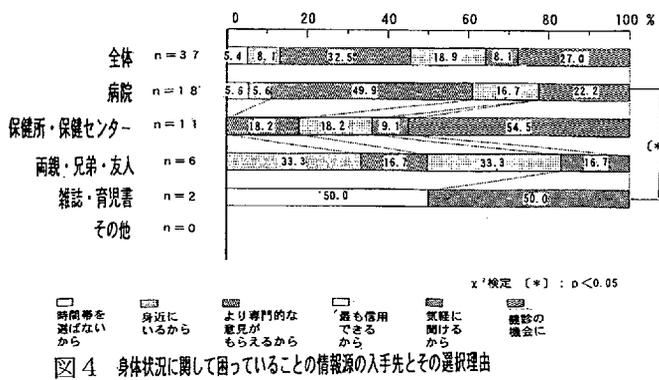


図4 身体状況に関して困っていることの情報源の入手先とその選択理由

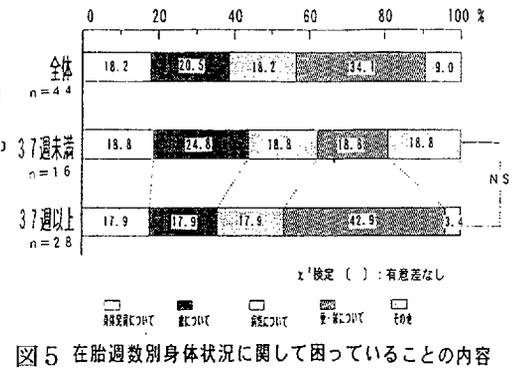


図5 在胎週数別身体状況に関して困っていることの内容

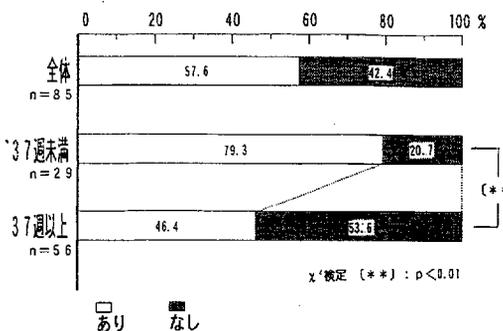


図6 生活状況に関して困っていることの有無(在胎週数別)

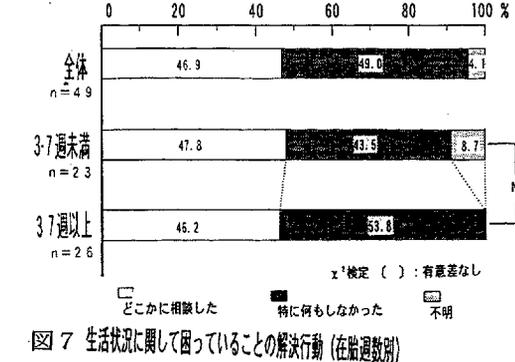


図7 生活状況に関して困っていることの解決行動(在胎週数別)

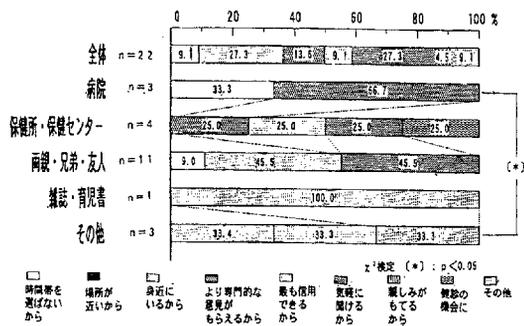


図 8 生活状況に関して困っていることの情報源の入手先とその選択理由

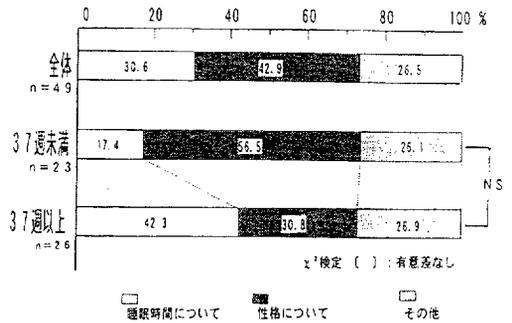


図 9 在胎週数別生活状況に関して困っていることの内容

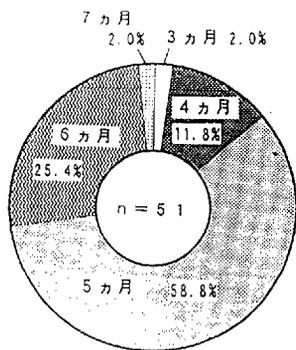


図 10 離乳食開始月齢

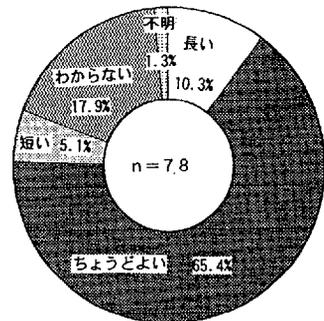


図 11 対象児の食事所要時間に対する母親の意識

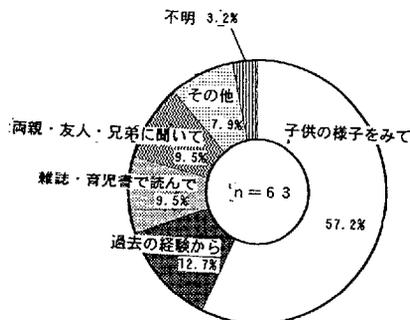


図 12 食事所要時間の判断基準

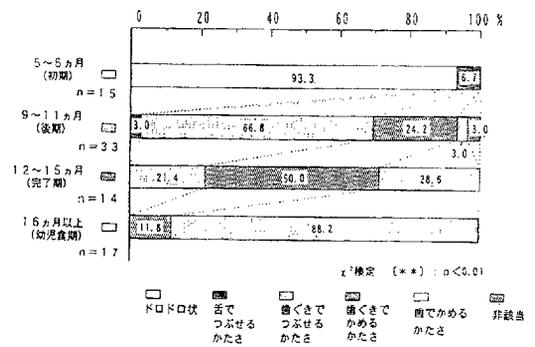


図 13 食事形態

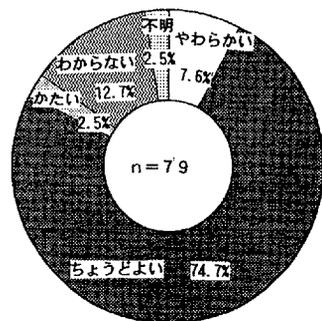


図 14 対象児の食事のかたさに対する母親の意識

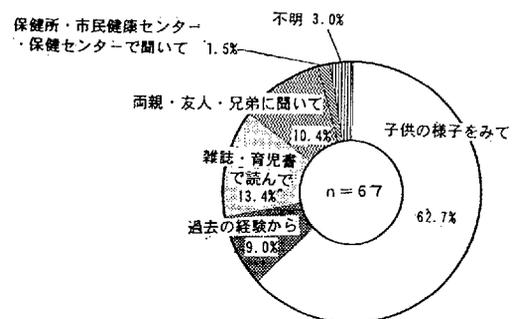
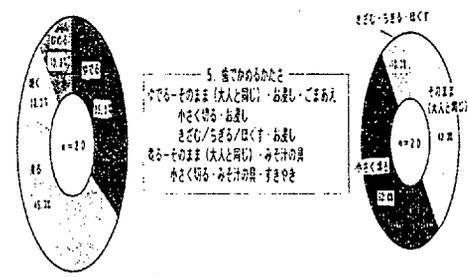
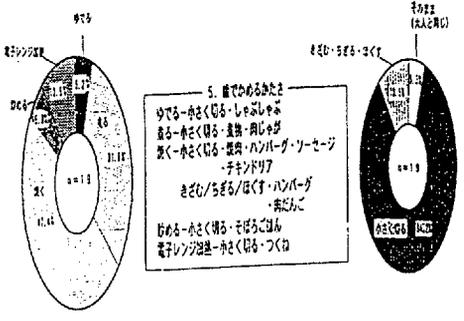
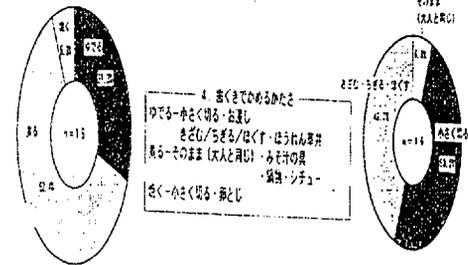
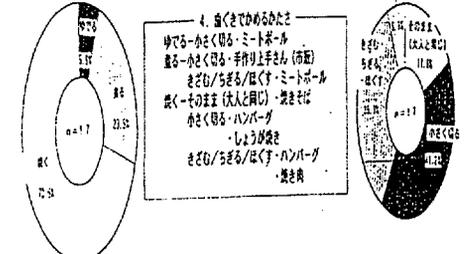
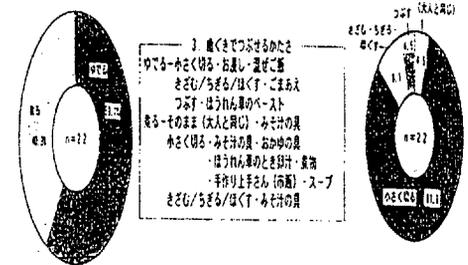
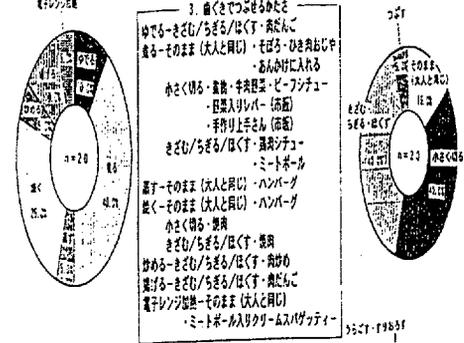
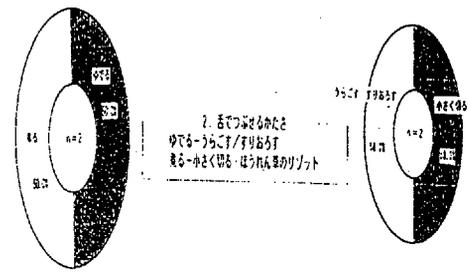
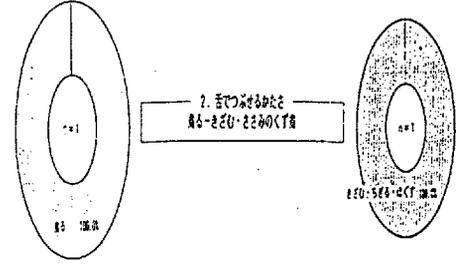
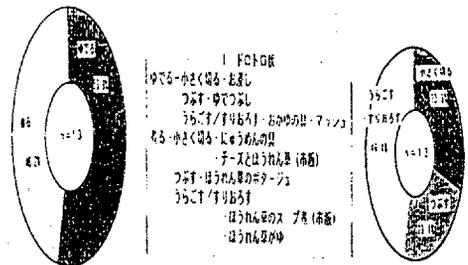
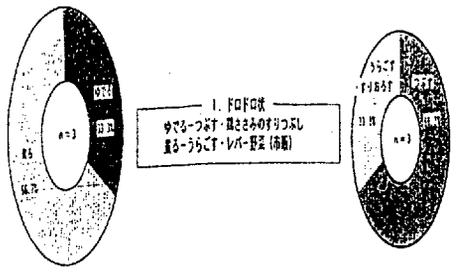


図 15 食事のかたさの判断基準



現在の食事形態からみた食材の調理方法  
現在の食事形態からみた食材の料理形態  
(肉)

図 16 食材の調理方法と料理形態 (肉)

現在の食事形態からみた食材の調理方法  
現在の食事形態からみた食材の料理形態  
(ほうれん草などの葉菜)

図 17 食材の調理方法と料理形態 (ほうれん草などの葉菜)

図18

( 12 ) カ月 - N.O. ( 7 ) 男児の例 平成8年 10月31日現在

<対象児の属性>

	身長 (cm)	体重 (g)
出生時	43.0	2010
(10) カ月時	71.0	8010
在胎週数	37週	
出生順位	1位	

出生時の状態	異常なし
保育器使用の有無	有: 10日間
出生時入院期間	11日間
既往歴	特になし
離乳食開始月齢	4カ月

<食事・育児に関して困ったこと>

授乳	①母乳・ミルクを飲む量が少ない
離乳食	①食事を食べたがらない (12) ②遊びで食べる (10・11・12) どのくらいの量を食べさせてよいかわからない (10・11・12) どんな食品を食べさせてよいかわからない (10・11・12) 食物アレルギーにならないか不安 (10)
身体状況	①歯について (11・12) ②便の状態について (10)
生活状況	①睡眠時間が短い (10・11・12) 睡眠時間が不規則 (10)
環境	①育児相談の場や機会の有無がわからない (10・11・12) 育児相談の場や機会が少ない (10)

<食事態度>

	飲み方	食べ方	姿勢
10ヵ月(男)	哺乳瓶で飲ませてもらう 哺乳瓶を自分で持って飲む コップで飲ませてもらう	食べさせてもらう 手づかみで食べる	寝ながら お母さんなどのそばに寝かして イスに座って
11ヵ月(男)	コップで飲ませてもらう	食べさせてもらう	イスに座って
12ヵ月(男)	哺乳瓶を自分で持って飲む コップで飲ませてもらう	食べさせてもらう	イスに座って 立ったまま
12ヵ月(男)	ストローマグを自分で持って飲む	食べさせてもらう	イスに座って

[姿勢] 「5分もしないうちにイスの上に乗ってしまう。」

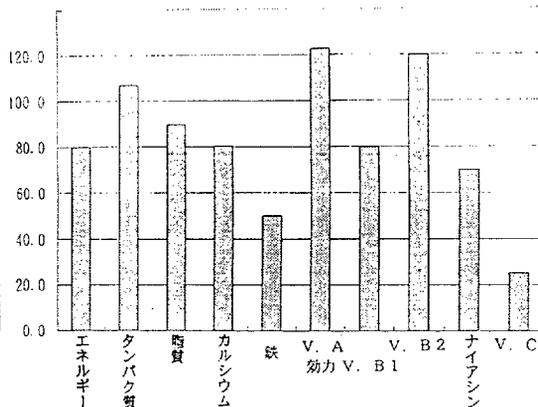
<食事回数>

	食事	おやつ	フォローアップ ミルク・糖	糖・ミルク
育児相談実施時 8月23日(10ヵ月)	3	1	4	—
9月25日(11ヵ月)	3	1	3	—
10月16日(12ヵ月)	3	1	3	—
実測調査実施時 10月31日(12ヵ月)	3	—	1(特)	—

<実測栄養調査より>

	～1日目～	～2日目～	～3日目～
食	ごはん 納豆 トマトシチュー 牛乳	チャーハン 里芋の煮物 パイナップル 牛乳	ごはん おでん シチュー 麦茶
食	煮込みうどん チーズ パイナップル 牛乳	野菜のうま煮丼 チーズ 麦茶	ごはん 預かりの詰物・チーズオムレツ トマト 麦茶
食	ごはん ポテトサラダ 里芋の煮物 キャベツのみそ汁 牛乳	ごはん 納豆・炒り豆腐 麦茶	ごはん ハンバーグ 豆腐のみそ汁 麦茶

・朝・昼・夜にしたがって、遊び食べが多くなる。(2日目:夜)  
・2、3日前くらいから口からものを押し出すようになった。食事の量が前より減った。(3日目:夜)



<栄養素等摂取量の状況>

	1日1食 (kcal)	タンパク質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	V. A効力 (IU)	V. B1 (mg)	V. B2 (mg)	ナイアシン (mg)	V. C (mg)
栄養所要量 (1歳児・男)	960	30.0	29.3	500	7.0	1090	0.40	0.50	6.0	40
1日平均栄養素摂取量 (12ヵ月時)	768	32.0	26.3	402	3.5	1229	0.32	0.60	4.2	10
栄養所要量に対する充足率 (%)	80.0	106.7	89.8	80.4	50.0	122.9	80.0	120.0	70.0	25.0

栄養所要量に対する充足率 (%)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:低出生体重児を持つ母親の栄養・食生活に関する意識や実態と、食や健康に関する情報の内容および入手経路はどのようなものになっているのか、その状況を把握し検討した。この結果、低出生体重児の食事状況は、育児担当者である母親の食生活に関する意識や食習慣・食行動に大きく左右されていることを確認した。従って、一人一人の児の抱えている問題が様々であり、対象児全体の平均化したものを基本にすべての指導マニュアルを作成することなく、可能な範囲で個別の事例をふまえ検討することが必要である。